

平成 27 年度第 5 回石狩市厚田区地域協議会

【日 時】 平成 27 年 8 月 31 日（月） 18：35 ～ 20：30

【場 所】 厚田保健センター 二階 研修室

【出席者】 12 名（15 人中）

役 職	氏 名	出欠	役 職	氏 名	出欠	役 職	氏 名	出欠
会長	佐 藤 勝 彦	○	委員	小 山 玲 子	○	委員	前 田 和 也	○
副会長	渡 邊 教 円	○	委員	今 光 江		委員	美 馬 康 子	
委員	大 黒 利 勝	○	委員	柴 田 志 寿 子	○	委員	盛 重 栄 司	
委員	小笠原 英史	○	委員	柴 田 肇	○	委員	築 田 敏 彦	○
委員	河 野 す み れ	○	委員	高 橋 敬 二	○	委員	吉 田 美 香	○

※正副会長を除き、あいうえお順

支 所 ～ 西田支所長

事務局 ～ 高田課長・相原主幹・渡部主査・永澤主任・寺内主任
(地域振興課)

地域おこし協力隊 ～ 小島隊員・沼倉隊員

【傍聴者】 2 名

- 【次 第】
1. 開会
 2. 会長あいさつ
 3. 情報交流（リラックス タイム）
・地域の「ちょっといい話題」交流
 4. 報告事項
・厚田区あったかニュースの発行について
 5. 協議事項
・厚田区地域協議会活動報告小冊子について
 6. その他
・次回会議の日程について
 7. 閉会

1. 開会

高田課長： 皆さんお晩でございます。平成27年度第5回目の地域協議会に入る前に、今委員、盛重委員、美馬委員の3名の方におかれましては、欠席の連絡を受けておりますので、報告をさせていただきます。また、前田委員と小笠原委員につきましては、若干遅れますと連絡を受けておりますので、ご報告させていただきます。

平成27年度第5回石狩市厚田区地域協議会を開会致します。会長から挨拶をよろしくお願い致します。

2. 会長あいさつ

佐藤会長： お晩でございます。地域協議会は、第5期の委員の皆さん達と今年度第5回目が開かれ、委員の皆様方におかれましては、色んな地域活動をなさっていただいております、今日も議題は凄く多いので、ここで長々と挨拶をしている時間的な余裕はありませんので、早速、始めたいと思います。

3. 情報交流（リラックス タイム） ※9月6日開催 北海道カレーサミット in 士別 出品カレー試食

4. 報告事項

- ・厚田区あったかニュースの発行について（渡邊副会長より資料に沿って口頭説明）

5. 協議事項

・厚田区地域協議会活動報告小冊子について

佐藤会長： 前回から検討して参りました「厚田区地域協議会10年の小冊子」の構成をどうするかという事で、相原主幹の方から提案がありますので、お願い致します。

相原主幹： 皆さんのお手元の方に、小冊子の構成イメージという事でお配りしておりますが、前回、前々回と、小冊子の中身はこういうのはどうだろうかという事を、皆さんから頂戴したご意見を踏まえまして、今回、編集委員の方々に編集をお願いするに当たり、このような構成でお願いしたいと考えております。つきましては、これに更に、こんな事を足した方が良いとかというのがあればご意見をお願いしたいのと、今回、前回の話し合いを元に、「Ⅲ 厚田区の目指す姿」のところに、例えば、未来に残したい故郷とありますけれども、前回のお話の中で、故郷って良いよねというお話があったので、その辺を盛り込みたいなと思っております。同じく、Ⅳのところにも関連して、厚田区の自慢の一つでもある豊かな自然を是非、活用していこうということも展望のところに入れたいなと思っております。こういう感じで、編集委員の方々と今後、協議をしたいと思っておりますので、追加とかあれば是非、この場でご意見をいただき、ご審議をいただければと思います。

佐藤会長： はいありがとうございます。大体、このような骨子で進めて行きたいなと思っておりますので、あまりこれにこだわる事は無いんですけども、何かこう皆さん方のアイデア・ご意見、そういったものがありましたら今回でも良いですし、次回の協議会の時にご意見をいただければという風に思っております。この項目、骨子を見てすぐに意見をいただくというのは大変なので、これを持ち帰りいただいてアイデアなり、ご意見を次回の協議会

の時にいただくという事で、相原主幹進めて良いですね。

相原主幹： はい、基本的には編集委員さんとお話しをさせていただきますけれども、追加等は全然考えられますので、何かあればこの次にとします。

佐藤会長： そうですね。委員の皆さんよろしいでしょうか。

【了承の声】

佐藤会長： 次回までに、これは宿題ではないのですが、ちょっと頭の中で考えたアイデアだとか、ご意見や考え方があれば、次回に発表していただきたいとします。

・「重点 道の駅」について（※当日追加議題）

佐藤会長： それでは、今日はその他と致しまして、残り時間を使って高田課長の方から説明をお願い致します。

高田課長： 私の方から、その他という事で「道の駅」絡みで、今、厚田区として地域協議会で基本構想を提出しているんですけども、それを受けて石狩市として今、基本計画を策定中です。それで、基本計画策定に当たって、今、連絡協議会というのを立ち上げようとしております。9月に入ってから作ろうとしているんですけども、一応、商工会、商工会議所、農協、漁協、観光協会、更には、両区の地域協議会の会長さんにも入っていただくという事で、どういう動き、どういう風な形になっているかというのを、情報共有をするという会なんですけれども、一応、「道の駅連絡会議」という事で、連絡協議会的なものを今、作ろうとしております。それで、うちの地域協議会からは佐藤会長がその委員という事で、出ていただくという方向で決まっておりますので、ここで皆さんにその報告をさせていただきます。

佐藤会長： という事で、石狩市役所の中にこの4月から担当部署が出来まして、5月にこの地域協議会から市長の方にまとめた「複合施設の基本構想」を手渡ししております。それを基本にしながら、基本設計を鋭意検討していると思われまします。それに関する連絡協議会が出来れば、より具体的に話が進んでいくんじゃないかと思うんですけども、5月に提出をして、5月、6月、7月、8月と四ヶ月経ちましたが、「道の駅」のオープンが平成30年の大体、ゴールデンウィーク辺りまでとゴールが決まっておりますので、結構、スケジュール的には大変ではないかと思われまします。地域協議会からは、皆様方から総意として基本構想という事で、言ってみれば、皆さんがこの地域の活性化の為に、こんな「複合施設」があれば良いという構想をまとめて提出致しました。私が想うのは、例えば、元々、その「複合施設」を建てるという時の議論の最初のスタートは、合併した後に、地域協議会が出来て10年、色んな団体がこう立ち上がって参りまして、その人を中心とするソフトが組織的にこう出来上がって来たんです。それらが相互に、その組織的に結び付きながら、地域の活性化にこう大きなこう一つのうねりを作っていこうという拠点としての「複合施設」を造ろうというのが、最初なんです。ですから、地域活性化の為に拠点という事になります。その地域活性化の為に拠点という発想が、国交省に認められて、「重点道の駅」に認定された事になります。

そうなりますと、その建物を建てる責任のほとんどが役所とか、国交省とかという役所関係になるんですよ。ところが、建物を建ててそれを運営管理していくというのは、どうしたってやっぱりその地域なんです。だから、その地域の人達の意見をもう少し具体的に、或いは、日頃考えているようにそういう具体的な考えです。構想ではなく、もっとこう具体的にこういう風にすれば、地域の人達がもっと関わりながら、地域活性化の為に、地域が活躍出来るその拠点としての複合施設が機能するだろうという事で、建てるまでは役所の責任。建ててしまったら、地域の責任という事に多分なると思うんですよ。丸ごと役所が「道の駅」を管理・運営しているというのは、全国で一つもないんですよ。第三セクターでやっても、やっぱり運営に関してだとか管理に関しては、地域とか、或いは、そういう会社に任せるとというのがほとんどの動きですから、石狩市も当然、そうなると思うんですよ。ですから、そういう構想では無く、具体的にこういう事がやっぱり将来の地域として必要だという事で、何かご意見があったり、言っておいた方が良くないと思われる具体的な意見を出していただければという風に思うんですけども、どうでしょうか。イメージや構想は出来ましたので、あとはもうお任せというのであればちょっとね。出来上がった物がそんな筈じゃ無かったよなという事で、一つの例を言いましょうか。私達は、凄く大きな構想や夢やイメージを抱いてきたんですけども、あれ、建ったら縮こまった小さな施設で、本当にこれからの将来の地域活性化はそれで良いのだろうかと思っただけです。ですから、例えば、漁協の青年部と農協の人達が集まって、一緒にやろうと言った夏祭りも1,000人近くが集まった訳で、例えば、その「道の駅」でイベントをするという事になると、少なくとも1,000人の人達がイベントに集まる訳ですよ。だから1,000人集まる広場が必要な事と、集まった1,000人を確保出来る駐車場というのが必要ですよ。そういう事も具体的に僕は要望しておいた方が良くないかなと思うんです。例えば、その「基本計画」のところで、普通乗用車が、例えば50台で良いとか、大型観光バスが1台や2台で良いとかという事では無いという感じがしているんです。その辺の具体的な意見がちょっとあれば言っていたきたい。何でも良いので言っていただいて、その意見を私の方や事務局でちょっとまとめていきたいと思っているんですけども、柴田委員どうでしょうか。

柴田委員：

当初、地域協議会としても、地域の発展の為に“核”となる場所という事で、色々と皆さんからも意見をいただき、特に他の地域の「道の駅」とは違う、モデルになるようなものを何か造っていただきたいというような事も要望しておりましたので、そういった考え方から、今までの既成概念にどうしても、こういう事を役所の人達がいる前で言うのは申し訳無いのですが、市役所の方なんか、所謂、「道の駅」という事、概念が、我々もあるんですが、そこを超えた一つ、大きな視野でのモデルに成りうる、ましてや「重点道の駅」という、国の政策に沿った施設ですので、我々、本当に完成を心待ちにしておりまして、これを起点にして地域をどうやって発展させるかという風に考えているものですから、さっき、こだわり隊が凄いスケジュールをこなして来ているのを見て、どれも盛況だったという事ですから、「道の駅」の中の中心的な役割を厚田こだわり隊に担っていただけたらと思うのと感じておりました。従って、そうなりますと厚田というのは他の地域に比べて、何かイベントをやると来る人の数が圧倒的に多いと思います。他で人が集まらなくて、駄目になったというのは記憶に無い程、たくさん来てくれますから、そういった意味では、一つの発想ですが、裏の旧

スキー場位までを削って、奥に思いっきり延ばせるような感じで、1万人が来ても大丈夫なような形で造る事が大事だろうと考えております。厚田に行くところこういうイベントがあるよという風になると、年毎に来る人が増えてくると思うんです。それが、3年かかるのか、5年かかるのかは解りませんが増えてくると思います。今、戸田墓園に來ている人達も何も無いから來ないんです。あれば必ずこっちへ來ますので、そういった事も含め、特に今、交通手段が多様化しています。今、自転車の人も最近、凄く多いので、バイクの人も多いです、キャンピングカーの人も多いです。そういう方々の為に、前に提案しましたが、そういう方々のフォローをきちんと出来るような設備も、是非ともお願いしたいなと思ひまして、充電設備とか給水設備とか、汚水を捨てる設備とかを全て有料でお願いしたいなというような想ひも持っております、そういった意味では、会長が「道の駅連絡会議」のメンバーになったという事ですから、非常に我々も風通しが良いので、意見を持って行っていて、是非とも、反映させていただきたいなと考えております。

佐藤会長： ありがとうございます。皆さんも、全く個人的な想ひで良いと思います。確かに、キャンピングカーで來ましたら、汚水の排水所って必要なんですよ。どこでも置いていく訳にもいかないし、それから給水設備、充電だとか、出来れば若い人達の使うWi-Fiとか、そういう設備やなんかをちゃんと整えるという事で、これは大変具体的で、ありがとうございますという事で、他にどんどん意見を言っ下さい。

小山委員： 地元の人を大切に、気軽に利用出来る部屋や食べ物があればと思う。距離的に遠い方も居るので、イベントとかへ参加する際の地元住民の足の確保の問題。地元の人から、あそこは他所から來た人達が利用する建物かと言われると、地元的には良くないと思うので、地元内外の人達が利用出来る建物であって欲しい。

佐藤会長： 今の意見は正に“近説遠來”で、周りの地域の人達が喜んで、それを見る為に遠くから人々が訪れてくれる。だから、例えば、これは個人的に思うんですけど、凄いイタリアンレストランだとか、そういう昼食を食べられるレストランを何処かに誰かに頼んで造りますよね。そしたら、地域で一生懸命やっている食堂だとか何かをという事は、町の中の商店街の中に、凄い大型店舗をドンと持ってくるようなもので、これは近説遠來を逆行するものという事を考えると、今の小山委員のは確かにそういう事ですよね。地域の人達がイベント毎に、そこに来てくれるようにライフサポートがサポートをしたり、出来れば、将来的にデマンド交通でそういう地域を回るバスでそういう賑やかな触れ合いの広場にしておいて人々を連れてくる。お祭り騒ぎはワクワクしますからね。これも結構、具体的ですねという事で、皆さんどうでしょうか。言わないと損しますよ。ここで具体的な事を言っておくと、そうか俺の言っ事は実現したとか、後で文句を言う時にも、俺は言ったのにどうして実現しなかったとか私に言わないで下さい。

大黒委員： 文化の面で、あそこの公園敷地には生家があり、その上の方にもずっと史跡がある。子母澤寛の石碑もあるので、下の「道の駅」とスムーズに行けばと思う。ただ売る事ばかりを考えずに。

- 佐藤会長： そうですね。経済的に、売れるとか売れないとかそういう事ばかりでなく、バリアフリーで、お年寄りが車椅子を引いても転がって下まで落ちて来ないとか、そういう危険性の無いという事で、今の意見はまた、凄くあそこは景色が良いので、この自然の景観というは一番美しく見える所なんですよ。ですから、そういうやっぱり文化的なものとか、自然の景観とか他所では見られないものを売りにするんですよね。
- 河野委員： 通常の「道の駅」は何時から何時まで開いているか。もし、24 時間ならちょっと泊まるとか、例えば、自転車の人とか遠くから来て、ここに泊まり次の日に浜益方面へとかという風に、雑魚寝が出来るような所があればと思うし、冬も使えると思う。
- 佐藤会長： 厚田に民宿無いんだよね。自転車の人とかだったらね。
- 佐藤会長： 避難場所は、どっちみち必要だから、冬の間に浜益だとか、通行止めになった時には、そこに一時避難的にするという災害時の避難場所にもしますので、今の発言にもあったように、厚田には宿泊の場所が無いんですよ。旅館にしても何にしても、だから夏の間にたくさんの道外の人とか、或いは今、言った道内の自転車の人だとかそういう人達を泊めてあげる所が無いんです。これは、直接、今の「道の駅」とは関係ないんですけども、後々、地域協議会で検討していただきたいと考えている事でもありますので、その時にまた、地域協議会で検討をしていただく。けれども、今言った避難場所として、その「複合施設」を使いますので、そういう事が出来れば、大勢ではないけれども、自転車のちょっとした人を泊めてあげられる。
- 築田委員： 折角の「複合施設」で、この国道 231 号線沿いの「道の駅」が無い所にやっと出来るという事で、冬の避難場所という事も含め、泊まれる所が必要で泊まるとなると 24 時間体制が必要と思うが、職員がそこに張り付くのか、受けた団体が 24 時間そこに張り付くというのは大変なので、例えば、消防署をあそこに持っていき、消防署の職員が受付をし、緊急の対応までしてくれる形も良い気がしている。
- 佐藤会長： 絶対に良い。面白いそれ。彼らは 24 時間居るからね。ふと思った事が、将来そういう事になるかも知れない。
- 河野委員： 冬の利用を考えると、凄く心配になる。
- 佐藤会長： 心配になりますよね。他の委員はどうでしょうか？こんなところで言ったらと思わないで言って下さい。それが素晴らしいアイデアになるという事です。
- 前田委員： 虻田の「道の駅」を使う事がありますが、トイレがウォシュレットで凄く安心するし、ウィシュレットが無ければ嫌なので、あとはシャワーとかも浴びれば理想。
- 佐藤会長： 良いね。そういう自転車で来たり、バイクでツーリング等。メモの方お願いします。
- 前田委員： ミニ水族館とか動物園、山の水族館みたいなのも欲しい。

- 河野委員： 「僕らはみんな生きているの」歌で出てくるオケラですが、名前は知っているけれども、見た事が無い人が多いので、探すことから始まるテレビ番組が放送されていました。望来にはオケラはたくさんいて、こういうのもイベントで使っても面白いと思う。
- 佐藤会長： 良いね。オケラを探すイベントとかね。そういうアイデアをどんどん出してもらって、それをイベントで活かす訳です。はいありがとうございます。
- 吉田委員： 最近の「道の駅」は進化しており、最近、オープンした千歳の「道の駅」や黒松内の「道の駅」とかはピザ等も人気で、今は、至る所に「道の駅」があり、当たっている「道の駅」と外れている「道の駅」の差が凄いのので、行きたくなる魅力が必要で、その地域まで行くメリットが必要。
- 佐藤会長： その差はどこにあると思います。当たっていると思う「道の駅」と外れている「道の駅」の特徴は何だと思えますか、当たりと外れという事で、要するにドライバーが寄って、メリットが無ければ来ないよね。
- 吉田委員： 人気の「道の駅」からヒントを得るとか、外れている「道の駅」は何が失敗なのかとか、実際に行ってヒントを得た方が早い。
- 佐藤会長： さっき、トイレという話が出たんですけど、相原主幹、深川の「道の駅」のトイレ良かったですね。
- 相原主幹： 深川は良かったですね。施設も新しく綺麗でした。
- 佐藤会長： あそこは、トイレの手洗いが全て一体で、全自動でしたよね。石鹼から何から全て一緒に、手だけを出せば良かった。当然、ウォシュレットで綺麗でしたね。
- 吉田委員： 伊達の「道の駅」に行ったら来たんですけど、メチャメチャ混んでいたんですけど、駐車場も広いから、待つ事が無かったので、厚田に住んでいても行きたいと感じた。
- 佐藤会長： 伊達は今、「道の駅」としては、最高トレンドなんですよ。
- 小笠原委員： 伊達の「道の駅」直売は、何度も立ち寄った事があり、通りがかりのお客さんや地元のお客さんも野菜を買いに来る訳で、あの辺は、野菜が年中出荷出来る地帯で、我々とは状況が異なる。当別にも「道の駅」が出来、石狩には農協の「とれのさと」があり、可能か解らないが、全部、同じようなシステムにする事で、例えば、携帯に何時の段階で、品物がどれだけ売れたとか、それを見て追加の分を農家が持って行ったりという事で、色々なタイプがあるが、それを当別と石狩で統一したシステムにし、どこの農家でも、当別町も含めた三箇所へ出せる仕組みに出来ないか。これは漁師も同様。
- 先日、赤井川の「道の駅」へ行ったが、直売所は、全然品不足で寂しかったが、パン屋があり、それを目当てに来るお客さんが居るようなので、そういうのもどうかと

思いますし、前にも話しのあった名水と言うか、水を無料でペットボトルに汲めるようなのが、羊蹄の方に行ったら良くあるので、ああいうのがあれば人が寄るかなと。

小島隊員： 先日、当麻の「道の駅」に一家四人で車中泊をしたが、キャンピングカーの人、ワゴン車の方とかが大勢居て、駐車場が大きく、トイレは24時間開いているので、利用者が多かった。また、トイレの内側がロビー風で、ちょっと寛いでいる人が居たり、向かいに24時間コンビニもあり、便利と言う事もあり、利用者が多かった。

駐車場が広い事から、朝方にはスポーツカーのチームや、そういう方達が自然に集まったり、オープンカーの人が日時を調整して、「道の駅」に集まったというのもあり、良い面も悪い面もあるが、厚田の今の観光案内所のバイクもそういった部分は実際あるので、面白いかも。

佐藤会長： そうですね。でも、観光案内所が狭いので、キャンプ場はバイクの溜まり場の一つになっているんだよね。だから、要するに駐車場は広くないといけない。

沼倉隊員： 伊達の「道の駅」は野菜の種類もたくさんあり、見るのが楽しい。中札内の「道の駅」は、小さい敷地内で小さいテナントが10前後で、それぞれの人達が頑張りと、客引きとかもし、それで活気が生まれ魅力になっている気がする。良くない所としては、凄く外観が煌びやかなのに、中に一店舗しか入っておらず、お土産屋さんだけで、凄く閑散としている所も。

柴田(志)委員： 家業は農家で、大きな4トン貨物とかで荷物を遠くへ運んだりする際に、「道の駅」に立寄ったりするが、やはり駐車場が広いと大型車も来たりして、スッと入れて、スッと出て行けて、トイレが綺麗というのが大事。一番最初にトイレに行ってからという感じになると思うし、トイレが綺麗だと、ちょっと中を覗いて買い物しようと思う。

佐藤会長： 駐車場とトイレは重要ですね。

高橋委員： ある程度、敷地だけは少し広く余裕を見ておかないと、後になるとどうにもならないので、建てる建てないは別として敷地は確保した方が良い。建物的には、景色を眺めるという事で、それは食堂では無く、物を買ってそこでゆったりと遠くを眺めたりするようなスペースがあったらと思う。文化的面でも、そういう所にちゃんと文化的な匂いのする物を展示したりするちょっとしたスペースがあったら良いなと思う。建てる側の身になると、今、言われたのを100%は絶対に無理だと思うので、その時に選択をする訳で、優先順位が出て来ると思うので、我々が出来る事は、優先順位をある程度、決めておかないと出来たものが非常に良くない物になってしまう。国立競技場の話では無いが、進んでからやり直しとなるとまた、時間もかかる。

佐藤会長： お金もかかるしね。

高橋委員： 特にそういう計画をする側というか造る側と、我々の地元との連絡や意見を密にし、フィードバックしたり、そういう作業を普段より綿密にやった方が良い。

- 永澤主任： 何かインパクトが無いとわざわざ車では来ない。例えば、目玉となる食べ物であったり、遊ぶ所が大切だと思う。地元の物を使いながら、人を引き付ける魅力が必要。
- 相原主幹： 厚田としてこれはやっぱり盛り込んで欲しいという事が必要。例えば、キャンピングカーの污水处理だったり、それから消防の機能がどうなのかとか、こんなのがあったら良いなというのは当然、肝心なので、厚田としてここだけ譲れないから、絶対に入れて欲しいというところが重要
- 渡部主査： 正直、夏場はどんな施設でもお客さんは来ると思うし、今でも来ているので、冬をどうするかというのが、一番ネックで、冬をクリアすると多分、問題無く運営出来る。夏場は正直、駐車場が広ければイベントも出来るので、イベントスペースがあればと思う。総合センターの前でも、1,000 人規模のイベントは出来るので、それ以上、大きくて駐車場もあれば最高。
- 佐藤会長： 北海道の「道の駅」の悩みはそこなんです。アイデアはあるんですよ。色々と温めているのはあるので。
- 寺内主任： こだわり隊の直売所は7、8、9の三ヶ月間やっており、お客さんの流れとして7月にはタコとかが朝市で売られているので、来たお客さんが帰りに寄ったり、下旬頃には海水浴場がピークを迎えるので、直売所への来客も増える。8月になると、朝市で営業する店舗が減り、海水浴客も大幅に減り、徐々に集客が低下する。更に、9月に入るとグッと交通量も落ち、やはり海水浴や朝市という目的の元、皆さんが来ているようで、直売所では年中売れるものは限られている事から、美味しいトマトであったりを粉末にしたり、上手く加工して販売出来るような加工施設とか欲しい。
- 佐藤会長： 駐車場が広くてしっかりしていたら、車の移動販売でアイス屋さんとか、市場にもカステラ屋さんとか、それこそスープカレーのそういうのが来て販売していいというブースみたいなものがあったら、夏だけ来て、夏というか、こっちでたくさん色々な事をしなくても、今週はこの車が来てとか、来週はあれが来るとかあっても。
- 高田課長： 皆さんから色々意見をいただいて、これをどう伝えていったら良いかなと今、考えてます。それで、最後にその辺を渡邊副会長あたりにアイデアを出していただきたいなと思っており、この纏め方のアイデアを出していただければと思ってはいるんですけども、いずれにしても、「複合施設」が出来て、やっぱり地域の方が良かったと言ってもらえるような施設で無ければ何もならないと思いますし、やっぱり10年積み上げて、今、色々、地域の方、団体の方に関わっていただいて、仕組みは出来ているので、その仕組みを活かすような施設に何とかしたいという想いは、厚田サイドとしては持っておりますので、皆さんの今日いただいた意見をどう伝えたら良いのかなというところを今、ちょっと悩んでおります。その辺、渡邊副会長、何か良いアイデアがあったらと思っておりますのが、いかがでしょうか。
- 渡邊副会長： オール石狩になって、厚田から若干、離れたという印象が僕としてはあるので、是非、この皆さんから出た意見と十数回やった複合施設の構想をもう一回洗って、本当

に何が必要なのか、厚田の方達の居場所があって、運営に携わってやっていけるんだという辺りを、順番を決めて、きちんと会長の方に提案していただくような形でシステムを作らないと、やっぱり厚田からちょっと離れて、どこか知らない所でやるような事の無いような、方向で出来ればやっていただきたいと思いますね。

佐藤会長：

そうですね。そして私としては熟慮するところで、この「道の駅」は実は、オール石狩なんです。231号線のずっと、オール石狩なだけけれども、歴然と厚田のこの地に建物としては建つんですよ。建物が建った所の地域の支援を無くしては、ここは機能しないんですよ実は。だから、これはあまり厚田、厚田という風に自己主張をしてしまうと、あそこの231号線のオール石狩の建物が何で厚田なんだという反感を買う事もあるんですね。ですから、今、渡邊副会長が言ったように、その辺は上手に、だけれども、一番最初に私が言ったように、建物を建ててくれる責任は、行政にあるだろうけど、そこを管理運営していく責任は地域にあるんだという事で、将来的には、5年先、10年先も地域が必ず発展していけるような、その「道の駅」の構想を実現するようなアイデアをその中に詰め込んでおかないと、要するに布石を打っておかないと、5年先にどっか知らない所のレストランが入ったとか、知らない人が管理運営をしていて、あの「道の駅」は我々の物ではないよなと地域に思われてしまつては、これは大変な事なので、だから、その辺りは十分、私達も意識しながら、それともう一つは、私の意見ではなく、この“地域協議会の総意としての意見”だというのは、やっぱり強い訳です。これがやっぱり、石狩市全体に訴えかける、最も効果的な方法だと私は思っております。ですから、今、本当に具体的な例がたくさん上がってきたんですよ。先ほどあった意見のように、やっぱりこの厚田の農業の特産品を通年通して供給するという事で、売る事自体が難しいんですよ。ですから、そういう事を考えてこれから何年か掛けて、厚田全体の農業または、石狩農協やら何かを全てネットワークで、その産物をそれぞれなるべく長い期間提供出来るような仕掛けや仕組みを何とか考えて、それを作っていく。それがやっぱり必要ですよ。

ちょっと話が逸れますが、最近、「道の駅」がこの「重点道の駅」という国交省の考え方が、全国の「道の駅」にどういう効果を及ぼしているかと言ったら、今まで、建っていた「道の駅」というのは980で、1,000近くあるんです。その1,000近くある「道の駅」の総売上げが、小売店売上げの5番目とか6番目というんです。その位、年間の売上げあるんです。そういう売上げのある「道の駅」を造った国交省が、今後は「重点」と付けたのは、その地域を活性化する拠点にするという事と同時に、「道の駅」同士をネットワークで結んで下さいという意向があるんです。要するに独立独歩でやる事は良いんだけど、そうじゃ無く、実は、「道の駅」というのは、道が通じている訳ですよ。ですから、この通じている「道の駅」をネットワークとして、地域の貢献の為に使って欲しいというのが、拠点としてのネットワークのこの二つが、今、目的としてあるんですね。その為に、お金を出してあげましょう、補助金を出してあげましょうという事なので、是非、先ほどの意見のようにその「道の駅」同士のネットワークも必要だけれども、やっぱり産物や何かを供給してくれる所のネットワークを作っていく。こういう仕掛けもやっぱり必要なという風に感じました。そういう事も含め、この厚田区の交渉の窓口で、最も有力なのが支所長なんですね。という事で、西田支所長、最後にお願います。向こうと切った貼ったのやり取りをするのが、ここになりますので、ここが弱腰になってしまうと、何か渡邊副会長が言った

ように遠くにある、故郷は遠くにあると思うものになっては困るので、「道の駅」は近くにあって思うものですから、よろしくという事で一言。

西田支所長： 今、佐藤会長からおっしゃっていただいた事が全てだと思いますけれども、今日、いただいた皆さんのアイデア、本当に大切にさせていただきたいと思います。高田課長からも申しあげましたように、正直、具体的な事はまだ、決まっていないに近い状態です。建つ事は間違いありませんので、この辺は、お間違えの無いようにという事なのですが、どうやって厚田を含むオール石狩でハートを込めた誇れる「道の駅」にしていけるのかというところだと思います。皆様の想いを形に出来るよう、渉外調整担当も含めて、全庁的にしっかりと協議をして参ります。ただ、出来てからも勝負だと思っています。出来て1、2年は人が来るかも知れませんが、その後の運営等に関しても人の動向等を分析しながら、地域で色々なアイデアを出し合って実践し、地域の魅力発信や地域再生に繋がるような道の駅にしていきたいと思っております。今後、会議以外のところでも顔を合わせた時などに、色々お話を聞かせていただければ有難いと思っておりますので、よろしくお願い致します。

佐藤会長： 進行がなかなか上手いですね。5分を残して終わりました。今の議論で、言い忘れたとか、これを言っておこうというのがありましたらどうぞ。

高田課長： 今の意見が色々あるんですけども、これをどういう形で整理することが良い事なのかについて、確認いただきたいと思います。

柴田(肇)委員： 例えば、今言った意見を大体、支所長、課長の方で整理をしていただいて、会長が代表して、そういった意見を協議する場に伝えていただくという事で良いのではないのでしょうか。

高田課長： 具体的なものが出たので、事務局で整理させていただき、会長と調整をして地域協議会として具体的なものを提案するような形をとったら良いという事でしょうか。

柴田(肇)委員： その方が良いと思いますね。

高田課長： 折角、色々な意見が出たので、届けるというような形で良いですか。

渡邊副会長： この地域協議会の人の意見なので、凄く大事な意見なので、それをやっぱり掘りどころとして、今後の協議に反映させていただけるようにと思っております。

佐藤会長： 最後に一言だけと思いますが、事務局で今の意見をまとめ、私の方で目を通してまとめますが、一点だけ、皆さん達にご確認というか、個人的な意見ですけども、最後にちょっと言わせていただきたいんですが、これを言っておかないと、まとめる時にちょっと困るので、何かと言ったら、「複合施設」の中に、文化的な施設という事で、要するに資料室に入れるという前提で作ってますよね。資料室の中身をどうするかという検討は、当然、これからですが、ここで一点、私、全く個人の考え方なんですけれども、資料室で固定的な物の展示をしますと、リピーターが増えないんです。あそ

この展示、一回見たら終わりだという事になりますよね。ですから、展示室というのは、出来ればある程度、フリースペースにしておいて、それぞれその展示に工夫を凝らして、リピーターを増やすようなそういう今までの資料室や資料館や博物館という概念を少し超えて、そして新しい展示の方法と、新しい内容をそこに付け加えながら、リピーターがあそこに行ったら、1ヶ月か2ヶ月毎に展示物が変わっているという事で、あれは面白いなというような、工夫を出来るようなフリースペーススタイルの展示室を作ってはどうかという風に個人的には想っています。もし、それに異存が無ければ、それも含めたまとめ方をしていきたいなと思っております、どこも失敗しているようで、例えば、余市ですが、宇宙なんだかという事で、飛行士の毛利衛さんを売りにしようとして、宇宙館か何かを建てたのですが、当初は15万人位集まったんですが、2、3年もすると、ほとんど客が来なくて、2年間休館にしていたんです。最近、またやっておりますけれども、展示規模をうんと縮小し、人件費をうんと削り、またやっておりますけど、見に行ったら前に十何万人集まったというのは解ります。ところが、今回は、もう二度と見たくないと思う位の展示で、内容を縮小してしまいました。一回目を見ていけば解りますけど、だからこんな事では、展示物は駄目です。そういう事も考えて、新しい展示の方策を探っていくというような、あたりでフリースペースのある展示スペースを個人的な提案としたいんですけども、もし、ご異存がなければと思いますが。

柴田(肇)委員：

現状の今は、資料室は有料でお金を貰って入っているんですが、今、先生がおっしゃったようにスペースをフリーにし、フリースペースとして多目的に使えるようなスペースを取るとすれば、今度、その辺での料金を果たして取らないとならないものかどうか、ただ、石狩市の基本的な考え方としては公共の施設に入った人からは、お金を貰うとやっているんですけども、私はこの機会だから、お金は取らずに無料で、フリーで自由に使い、多目的に使えるという施設にしていく方が、煩わしくなくて良いのではないかと。有料にする事でお金を貰うのに人が居るので、付いていなければならず、いつ来るかも解らないのにとという事で、それはいかがなものかなと思いますので、これらも含めて検討していただける方向で、お願い出来ればと思います。

佐藤会長：

資料室の展示に関しましては、教育委員会が担当なので、教育委員会の決まりなんかもございまして、そういう事が出来るかどうかという事もあるので、そこら辺も含めて検討させて下さい。

6. その他

次回会議等の日程について

平成27年9月24日(木) 18:30 ～ 望来コミセン みなくる ホール

7. 閉会

平成27年9月24日 議事録確定

石狩市厚田区地域協議会
会 長 佐藤 勝彦